

ビタミンC剤を黒毛和種去勢牛の 肥育中期に給与すると肉質向上が期待される

福井県畜産試験場では黒毛和種去勢肥育牛に対して肥育中期から出荷まで1頭体重1kg当たりビタミンC剤を30mgまたは60mg給与することにより、脂肪交雑が向上することを確認しました。しかし、ビタミンC剤は高価であるため、今回は、増体系黒毛和種去勢牛を供試し、効果的な添加給与期間を検討するとともに、出荷月齢の短縮の影響についても検討しました。

☆ 技術の概要

1. 中期給与区と中・後期給与区を設定して26ヶ月齢まで肥育しました(表1)。通算日増体重は中期給与区、中・後期給与区それぞれ0.88、0.85kgで両区に差はみられませんでした(表2)。
2. 枝肉重量、ロース面積、BMS値、締まり、きめのいずれの項目も中期給与区と中・後期給与区に差はみられず、26ヶ月齢出荷でも締め・きまり等級は高い値でした(表2)。
3. 血中ビタミンA濃度は中期区が中・後期区よりもやや高く推移しましたが、BMS値は両区とも高く、差がありませんでした。血中ビタミンC濃度については個体差が大きく、また、ビタミンC剤の給与期間との関係もみられませんでした。
4. 肥育中期のみのビタミンC剤給与でも中・後期給与と同等の肉質向上が期待されることが分りました。

表1 試験区の構成

区 分	供試頭数	ビタミンC給与期間	ビタミンC給与量 *
中期給与区	4	中期 15～19ヶ月齢	中期 30g/日 (48～60mg/kg) 後期 無給与
中・後期給与区	5	中期 15～19ヶ月齢 後期 20～26ヶ月齢	中期 30g/日 (50～66mg/kg) 後期 40g/日 (52～70mg/kg)

*大豆硬化油脂でコーティングされたビタミンCを90%含有する製剤

表2 平均体重、日増体重および枝肉成績

	中期給与区	中・後期給与区
10ヶ月体重 (kg)	309	281
19ヶ月体重 (kg)	560	540
26ヶ月体重 (kg)	727	697
通算増体重 (kg)	418	416
通算日増体重 (kg)	0.88	0.85
枝肉重量 (kg)	460	436
ロース芯面積 (cm ²)	48	51
BMS No.	8.5	7.4

☆ 活用面での留意点

市販されているビタミンC剤は種類により含量やルーメン内での分解保護能力が異なるので、注意する必要があります。詳細は、福井県畜産試験場 (TEL:0776-81-3130)にお問い合わせください。
(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 田辺 忍)